

# ガンコ親父の

昔々、鬼一族は桃太郎によって攻め込まれた苦い経験を持っていた。鬼一族の王は戦死し、その孫である戦を知らない鬼の王子は家老だった鬼の松次老に育てられていた。

「あなたのおじいさんは大変立派な方でしたが、桃太郎は犬とか猿、キジとか家来を集め、吉備団子とかいう糖質系の食べ物に分け与え、とんでもない攻撃を仕掛けてきました」と松次老は王子に何度も話し聞かせていた。

ある日、松次老に謀報部員である人間界の市場に放っていたカモから極秘情報が入った。情報伝達時、カモは今夜のおかず用にネギを抱えていたが、松次老の涎が今にも垂れそうなお元から殺気を感じて、早々に退出した。松次老はカモがネギを背負ってくるなんてマジか、と思ったが頭を振って「鴨鍋」の思いを振り払った。

「王子、大変な事態です。また人間界から鬼ヶ島への攻撃がありそうです。桃太郎の甥っ子に当たる『梅太郎』という何やらしょっぱそうなのやつが大将で、それも『梅ニンニク』とかの強壮剤をたくさん持って乗り込んでくるのだとか」。

「えー、そんなあ」と鬼の王子は泣き顔になった。「前回、桃太郎は吉備団子パワァーで攻めてきましたが、今度はさらに強力な『梅ニンニク』です」

「からね。パワァーの強度が全く違います。ですが、すぐに対策を講じますので、どうぞご心配なく」と松次老は強気を装った。



しかし、ご心配なくと言ったものの、王子の不安そうな表情を見たら、誰だっで心配になるだろう。王子の啞然となった半開きの口元からは、牙というにはお粗末すぎる「八重歯のような牙」がのぞいていたからだ。松次老は王子のそんな可哀想な牙を見て気が滅入った。「ん？」ちよつと待てよ、案外、これは戦意を喪失させる新しい武器になるかもしれない。ふふっ、「気滅の八重歯」大作戦だな、なーんちゃって、と松次老は王子に気づかれないように不謹慎な笑いを噛み殺した。

そうこうしているうちに、梅太郎の一群は鬼退治だと思気込んで、梅ニンニクの匂いをプリンさせながら島に上陸してきたが、すぐに鬼の兵士たちは迎え撃った。突撃する前に梅太郎は対峙する鬼の連中を見渡した。鬼瓦のようないかつい顔はもちろん、みんな牙を剥き出した鬼の形相で梅太郎を睨みつけている。梅太郎の身体中にアドレナリンが走った。しかし、真ん中に立っている大将らしい若い鬼を見ると、なぜか気が緩んでしまった。

梅太郎の家来の三毛猫も「あいつの牙より俺の歯の方が全然鋭いにやー」と笑い始めた。梅ニンニクを備えた屈強な一群の戦意は不思議にもどこかに飛んでしまったのだ。緩んだ兵士たちに勝利はなかった。すぐに梅太郎一派は追い返されてしまった。

「気滅の八重歯」の勝利だった。松次老はお祝いに『しまっちゅ伝蔵』をみんなに振る舞った。この歴史的な出来事は、後の時代にまで伝え残す価値があると松次老は思った。

「気滅の八重歯」が大ブームとなったのはみんなの知るところである。



奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵

常圧蒸留

昔ながらの手造り  
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12  
TEL 0997(65)0251



25度 好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。

# 「梅太郎」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。